

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 緑丘 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

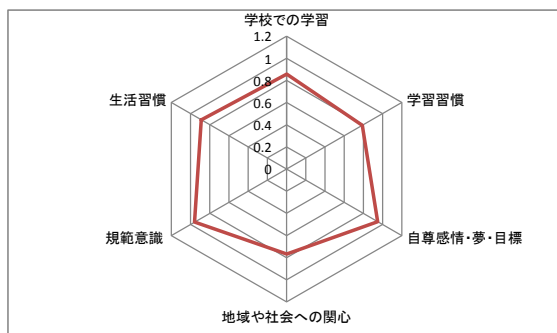
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、言語知識理解は基礎ができていた。 ・書く力を問う問題や漢字を書くことに課題があり、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・文章の中における語句の意味や適切に使うこと、その意味を理解する問題は全国平均より上回っていた。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことや、漢字を正しく書くことは一層の努力が必要。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っているだけに、文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・話しの展開に注意し、必要に応じて質問したり、相手の反応を踏まえながら話す問題は全国より上回っていた。	
	努力が必要な問題	相手に的確に伝わるように、あらずじを捉えて書く問題は、無解答率も高く一層の努力が必要である。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・指数を含む正の数と負の数の計算の正答率は全国よりもかなり高かったが、また、空間認識にや文字式、方程式を始め、各計算についての力が不足しており、基礎的な計算力をつける必要があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・指数を含む正の数と負の数の計算の正答率は全国よりもかなり高かった。	
	努力が必要な問題	・具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形する問題は、無解答率が非常に高かった。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をかなり下回った。与えられたいろいろな事象を数学的に解釈し、的確に処理する類いの問題は、正答率もかなり低く、問いに対する理解力に大きな課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・問題場面における考察の対象を明確に捉える問題は、全国を上回っていた。	
	努力が必要な問題	・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題は、無解答率が一番高かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・自然事象に対する興味、関心が低く、学習内容の定着に達していない。知識、理解に関する問題は、ある程度できるが、思考判断を問う問題は、一層の努力が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・ガスパーナーの空気の量を調節する場所を指摘する問題は正解率も高く、全国を上回っていた。	
	努力が必要な問題	・神経系の働きについての知識を身に付けているかを問う問題は、無解答率も高く正解率もかなり低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習は、全体的に学習時間が少なく、また計画的になされておらず、学習習慣が身につけていない。 ・学習面においては、授業の中での目標(めあて)を理解しているが、まとめや振り返りの整理につががっていない生徒が多い。自分の考えや思いを文章にしたりまとめることは成果がみられるが、目標到達にいたっていない。また生徒間での話し合う活動も課題である。今後一層の継続された取組が必要であり、成果となって現れるような授業内容を改善していくことが重要がある。 ・生活習慣では、規則正しい生活を心がけるように粘り強く指導していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

各授業における目標(めあて)とまとめや振り返りの徹底を図る。定期考査前には、試験勉強の時間を確保させるために、中間考査は2時間、期末考査は3時間の時間を設けた上で、各教科の質問教室を割り当てる。各教科、学期に最低1回以上のアクティブ・ラーニングの授業を行う。学期に1回以上の校内授業研究を全職員で行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の時間が少ないため、各学年の毎日の自学ノートの充実をはかること。また定期的に各教科から課題を出すことも検討する。学習に対する個に応じたアドバイスや助言なども定期的に行う。・全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。そのため、学校だよりや学校ホームページを活用する。